

令和元年12月20日

令和元年度冬季休業前 校長あいさつ

先ほどは、弓道部の壮行会、そしてこれまでいろいろな場面で活躍してくれた皆さんの表彰を行いました。弓道部の皆さんは、団体での全国大会出場です。まさに“ワンチーム”での快挙、健闘を祈ります。

さて、その“ワンチーム”。来年は東京オリンピック、そして本校生徒のが大活躍した「いきいき茨城ゆめ国体」を挟むように、ラグビーのワールドカップが日本各地で開催されました。日本中をラグビーブームに巻き込み、ベスト8の成果とともに大変な盛り上がりを見せました。先日の5万人の人出で賑わった東京でのパレードも記憶に新しいところです。

ところでそのラグビーですが、昨年の冬休み前の集会で、私はラグビーニュージーランド代表「オールブラックス」の司令塔、スタンドオフを務めたダン・カーターさんの話をしました。そこでのポイントは「謙虚と感謝」でした。

ここで、なぜ私がラグビーの話題を再び取り上げたのかといえ、これまでの壮行会の際に何度か話していますが「人との出会いを大切に」という、その「人」との出会いが、このラグビーの場面であったからです。

私の通った大学は体育が全学年で必修で、その流れでラグビーを履修することになりました。当時指導してくださった先生は、その大学ラグビー部の監督も務められていたT先生でした。その当時は全く存じ上げず後から知ったことですが、指導者としても大変高名な先生です。

そのT先生は、われわれ素人に対しても本気で相対してくださいました。こちらが体育専門の学生ではないにもかかわらず、一切妥協はせず、ラグビー主専攻の学生に対するのと（おそらく）同じように指導されました。当時は、自分の甘さ加減が勝ってしまい、感謝の気持ちにはほど遠い心持ちだったと思います。今思い返すと、自分の至らなさに大変歯がゆい思いがしてなりません。授業の最後の頃に、先生が「こうしないと、君たちに怪我をさせてしまうだろう」とのお言葉がありました。

振り返ってみると、何て素晴らしい授業を受けることができたのだろう、と思うと同時に、先生の深い愛情と、どの学生に対しても本気で接していただいた感謝の気持ちが大きくなっています。

先日、本校の吉田先生から（吉田先生はラグビーの専門家です）、T先生は、その大学の医学系ラグビーの監督をなさっていると聞きました。

少し前になりますが、9月の初め、久しぶりに母校のラグビーグラウンドを

訪ねました。T先生は、74歳になる今も、学生と一緒にグラウンドを走っておられました。今話した話題に触れると「そんなこともあったかなあ」と、遠くを見つめておられました。今でも、本気に学生と相対している先生の姿を目の当たりにして、とても心が温くなりました。

学生時代の話が続きます。私は同じ大学でオーケストラに所属していました。一緒に活動した友人が、現在、在京のプロオケのコンサートマスターをしている話は以前にもさせてもらいました。

このときも、先ほどのT先生と同じような経験をしています。私は、学生指揮者として、プロの指揮者に指導していただく前段階での合奏の練習指導などをしていたのですが、ある年の夏合宿の際、それまでとても穏やかに（という表情しか拝見したことがなかった）我々に相対してくださっていたビオラのトレーナーのM先生が、指揮していた私に、突然激昂されたことがありました。

今思い返せば、私はその合奏の際、十分な準備をせず、またスコア（総譜）の勉強をあまりしないで合奏に臨んでおり、そこを指摘されたのだとはっきり認識できますが、当時は、驚きとショックしかありませんでした。

その練習後のことです。M先生は私に、「先ほどはごめんなさい。でも、田村さんがしっかり準備してないことがよくわかりました。よい音楽をつくるのにプロもアマチュアもないと思うんです。」とお話してくださいました。ここにも本気で私に接してくださった人との出会いがあります。

皆さんには、本気で叱ってくれる人はいますか？

叱られることは、その場ではあまりよい気持ちはしないものですが、少し考えれば、自分のためを思っている行為であることがわかるはずです。その時は、なぜ叱られているのかがわからず、理不尽な思いしか残らなかったけれども、実はそうではなかった…、というような経験。

今年は、特に部活動で、そんなことを考えさせられることが多い年でした。いろいろな部活動で、顧問の先生方は本気になって叱ってくれているはずです。そんな経験を、それ以後の生き方に大事に育ててください。そして、この冬は、今述べたような経験を通して、「本気になるもの」や「本気になること」を見つけることができるよう、アンテナを高くして感性を磨きましょう。

前にも紹介しましたが、バレー部の卒業生の皆さんが、同窓会誌『雁耕春秋』のなかで触れていたように「取手一高に入学した事が一番誇れる」ような生活をお願いします。取一精神「力耕不吾欺」を忘れないで、有意義に、事故なく過ごしてください。皆さんの真摯な取り組みをお願いします。